

前回に続いて新検出・中世在銘の石造遺品を紹介します。

〔中筋墓地の阿弥陀石仏〕



中筋墓地の石仏

伊保山の西側、山裾に沿った細長い中筋共同墓地の奥に祀られている左の石仏です。

石仏は、竜山石製で下部を直接土に埋めてあります。五弁の蓮華座上に像高三一センチある定印の阿弥陀如来座像を彫っています。

像容の左右に次の銘文を刻出しています。

南無三 阿弥陀如来

(像 容)

九月

寶徳元年 己巳

二日

宝徳元年（一四四九）は室町時代中期前半の年号です。

また、「南無三」は「南無三宝」の略で仏・法・僧の三宝に帰依すること。危機に際し

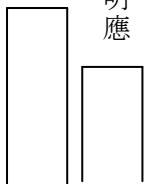
て仏や菩薩に助けを求め、祈願することであるが、驚いた時や失敗した時に発する表言語となっています。

〔中島の宝篋印塔基礎〕

中島一丁目十番付近の広場に小祠があり、その周りに石造物の残欠を集めています。その中に五輪塔の地輪・在銘の宝篋印塔基礎そして一石五輪塔を積み上げ、各部品をセメントで固定しています。

竜山石製で反花座と四面に退化した格狭間を造るが、摩滅や欠失がある石造遺品です。一面の両側東部に次の銘文を刻出しています。

明應



中島の宝篋印塔



明応年間（一四九二〜一五〇一）は室町時代中期後半の年号です。

〔蓮華院の自然石塔婆〕

曾根町一九九五番地に蓮華院があり、境内墓地の西側隅に立て掛けてあります。



蓮華院の石塔婆

四国産の緑泥片岩製で、上部中央に開花蓮に乗る種子しゅじキリーク（阿弥陀如来）その下右にサ（観音菩薩）左にサク（勢至菩薩）を彫っており、種子で阿弥陀三尊を表しています。

種子三尊の下に次の銘文を刻出しています。

□中二年十月日

年号は南北朝時代後期の元中二年（一三八五）か文中二年（一三七三）と思われます。

（市史編さん特別執筆者

藤原良夫）